

1. 家政学を経験科学として確立するにあたって、特に重視しなければならないことは、科学としての客観性をいかにして維持するかということである。

しかるに、家政学の大勢は、家政学に多くの倫理的あるいは実践的な価値判断が持ち込まれていることを示している。家政学は規範科学であるとか、実践科学であるとか、政策学であるとか、技術学であるとか、応用科学であるとか、と主張する学説が多い。このような考え方が、とかく、家政学を価値判断の学にするのではないか。

家政学を客観的な科学として整理するために、この問題を考察する。

2. 主として家政学原論、家庭科教育史、科学哲学に関する文献的資料による。恣意的判断を避け、客観的な考察を行なう。

3. 家政学の科学としての客観性を確保するために、現在のような価値判断の侵入は排除しなければならない。そのためには、マックス・ウェーバーの「価値自由性」論や論理実証主義の「価値情緒説」に学ぶべきであろう。(しかし、事実と価値を対立させる二元論については疑問がある)。